

廃塩ビ壁紙の小口回収方式、壁協研究報告をまとめる 今年さらに実験協力者を得て研究 より使いやすい方式確立目指す

日本壁装協会は、平成27年度末に『広域認定制度を利用した塩ビ壁紙のリサイクル小口回収システムの開発及び実証試験の実績報告書』をまとめた。総会で会員に報告する。

この事業は、塩ビ工業・漬境協会が設けている『小口回収システムの開発及び実証試験の支援制度』による支援を受けて、平成27年1月から12月末までの期間に実施されたもので、その事業の概要は次の通りである。

目的は、壁紙施工時に発生する廃棄物となった壁紙を、廃棄物処理の広域認定を取得し、廃棄物回収システムを開発、リサイクルの推進を図る。

事業目標

- ① 広域認定制度に基づく廃壁紙等の小口回収及びリサイクルシステムの構築
- ② 運営及び管理用アプリケーションの開発
- ③ 廃壁紙等のリサイクル性(今回は猫砂原料に使用)確認
- ④ 実証実験に基づくコスト検証(現行の処理費用を下回ること)
- ⑤ これら運用に係るマニュアル作成とその説明会の開催

前掲各目標に対する成果・進捗

- ① 小口回収、リサイクルシステム構築完了を確認した。
- ② 運用管理は問題なく確認した。
- ③ 今回は約70%が猫砂の原料に利用され、30%は有価売却または「ゴミ固形化燃料」に加工され売却された。
- ④ コストは現行処理費を下回った。

マニュアルは作成されたが、実証実験の遅れ等で説明会は開催していない。

今後の課題と予定

- ① 開発期間中に行えなかった追加実証実験及び参加予定業者等への説明会は今年度中に実施。
- ② システム加入者の募集及び応募者への教育体制の構築。
- ③ 広域認定の取得。

研究実施と本格稼働の為、施工団体に参加・協力を要請

以上の成果を得て日本壁装協会は、次の2点を挙げ、当該システムの完成度を高めるとともに、事業の本格化を図りたいとして、特に、壁装施工団体協議会に強力な協力を要請し、壁紙施工業界の参加・協力を呼びかけるとしている。

- ① 今年度モニタリング(実験協力施工者)を募集して、更に使い易い方式を研究、確立させる事業を実施する。
そのための協力者募集を支給実施したい。
- ② 小口回収システムの参加施工者を募集して同システムでのリサイクル事業の本格稼働を実現する。

壁紙生産・出荷量 前年度比0.5%減

日本壁装協会はこの5月中旬に2015年度の「壁紙の生産・出荷量」と、「壁紙の輸入・出荷量」を発表した。壁紙の生産・出荷量は、前年比99.49%と、0.5%ほどの減で、昨年予想されていたよりは堅調であった。

壁紙の生産・出荷量 2015年度

種類	生産量 (㎡)	出荷量 (㎡)		
		内需	輸出	合計
紙系壁紙	4,290,690	3,949,777	220,382	4,170,159
繊維系壁紙	1,742,529	1,057,290	672,816	1,730,106
塩化ビニル樹脂系壁紙	585,630,689	589,661,534	864,642	590,526,176
プラスチック系壁紙	76,632,943	76,579,502	95,148	76,674,650
無機質系壁紙	5,126,480	4,968,896	139,082	5,107,978
その他の壁紙	571,952	566,707	6,786	573,493
合計	673,995,283	676,783,706	1,998,856	678,782,562
前年比 (%)	97.41	99.50	95.25	99.49

壁紙の生産・出荷量 2015年度

種類	輸入量 (㎡)	出荷量 (㎡)
紙系壁紙	216,919	212,245
繊維系壁紙	194,617	177,455
塩化ビニル樹脂系壁紙	646,639	632,712
プラスチック系壁紙	0	0
無機質系壁紙	24	24
その他の壁紙	170,238	156,780
合計	1,228,437	¥1,179,216
前年比 (%)	90.64	87.91

壁装新聞(第435号)より引用